

アンチエイジングのススメ ④

新 西 関 談 笑

——アンチエイジングに興味をもたれたきっかけは
吉川 京都府立医大の研究室にいたころ先輩に「研究を手伝え」といわれて、何も分からずに研究室にもって試験管の変化を見ていた。半年くらいたって、ようやく「自分は何をやっているんだろう」と(笑)。よく見てみたらビタミンEについて研究していたので、「じゃあ調べてみようか」と勉強するようになった。

——それがアンチエイジングにつながった
吉川 ビタミンEは脂溶性の物質で、脂質でできた細胞膜の中に入ることができ。さらに、細胞の酸化を抑えていることがわかった。次に酸化について研究すると、酸化が老化を起しているんじゃないかと。じゃあ酸化を防止して老化を抑えようということ、アンチエイジングに至ったわけです。

——それからは研究の毎日

患者さんと触れ合う方が好き
研究は嫌で仕方なかった。

京都府立医大大学院教授 吉川 敏一さん



昭和61年、アンチエイジング研究のきっかけとなったビタミンEについて学会で発表する吉川教授

吉川 もともと研究は嫌い、嫌で嫌で仕方なかったんですけどね。

——どうしてですか

吉川 性に合わない(笑)。研究よりも臨床医として患者さんと触れあう方が好きでした。大学の医局に行くと、「研究しなさい」と言われるので、なるべく医局に行かないようにしていた。白衣や聴診器を別の建物に置いてね。朝来たらそこで着替えて患者さんを診て、夜遅くにまたそこで支度して帰る。そんな

生活でした。患者さんと一緒に笑って泣いて、というのが、一番楽しかった。

——医者を目指したのは

吉川 小学校くらいから。私は祖父母に育てられましたが、よくお医者さんへ往診に来ていた。とても優しく、いい先生で、祖父母も先生が来てくれたらうれしそう。病気を治すというこの大切さを教わった。その先生が府立医大の出身で、「よし僕も府立医大に行つて医者になろう」と思いました。

——アンチエイジングに活動製

吉川 よりアンチエイジングに適した作物を作ろうと思っっています。温度を変えたり紫外線を強めてたりして植物に酸化ストレスを与え、そうすると抗酸化力が強くなった農作物ができるのです。糖尿病や動脈硬化の大家といわれる教授陣を集め、病気に効果があるといわれる栄養素を多く含む作物も研究中です。

——食事でも病気を防ぐので

吉川 現在はサプリメントで足りていない栄養素を補うことが多いですが、私は通常の食事で同じ効果を得られるようにしたいと思っています。ほかには、アンチエイジングの検査「アンチエイジングドック」を広く知ってもらいたいですね。

——人間ドックとは何が違うのですか

吉川 体内のビタミンE数値や不足している栄養素の種類のほか、人間ドックでは測れないホルモンの数値も血液から調べます。ホルモン種類を調べるのには現在は数千円かかってしまっていますが、患者さんが多くなれば費用を安く抑えることができます。他には、血液を入れるだけで病気になりそうなのを血液かどうかを測定する装置を開発中です。ホルモンや筋肉、血管などの年齢を測定して的確な対策をたて、多くの人がいつまでも若くいられるサポートがしたいですね。

(聞き手 宇都宮徳)

ゆ

と

り